

前年度の改善取り組み結果及び次年度改善策の方針

肯定的な回答が多かった項目

児童

項目	とても思う 思うの合計
先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。	93.2%
授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。	92.8%
学校行事は楽しい。	88.7%

保護者

項目	とても思う 思うの合計
学校行事は、子どもにとって楽しい。	96.3%
学校行事は、子どもにとって達成感がある。	94.7%
本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている。	94.5%

- 本校では、「国語科説明的文章で読み取ったことを生かして、的確に自分の考えを表現する児童の育成」をテーマに校内研究を行っている。授業を行う際には、教員は学習のめあてを明確にし、授業計画を立てたり、黒板に記したりするようにしている。「せたがや探究的な学び」にある学びのプロセス「（プロセス1）課題を見出し、把握している（プロセス2）課題解決の方法を考えている（プロセス3）協働して学んでいる（プロセス4）学びを振り返り次につなげている。」を大切にして授業を行うことで、子どもたちがその時間に何を学んでいるのかを意識し、自分で考え、友達と話し合い主体的に学習を進めていく活動を継続して行っている。また、意図的に発言しやすい環境や発表の場を設定するなど工夫して授業を行っている。
- 学校行事について肯定的な意見が児童、保護者共に高い。これは、新型コロナウイルス感染症が、5類となり、学校生活がコロナ過より制限がなくなり、学校行事も全体で行えるようになったことも関係していると考え。また、コロナ過を経て、それぞれの行事で今できることを最大限に考え、実施してきた成果であると考えている。また、教員が、児童一人ひとりを大切にしたい指導を行い、児童に達成感や充実感を与えていることも大きいと考える。
- 避難訓練は、全校の子どもたちの安全を守ることを重要視し、コロナ過から全校で校庭にて行っている。また、防災ノートなどの取り組みを家庭に持ち帰って行い、学校だけではなく家庭とも連携し、安全教育を行っている。さらにPTAが広報誌やメールなどで地震の際の避難の仕方を保護者に発信してくださったことが、安全教育の評価の高さに結びついたものと考え。これからも、保護者や地域の方々と協力しながら、安全教育を推進していく。

否定的回答が多かった項目

児童

項目	あまり思わない 思わないの合計
私は、塾で学習している。	45.9%
私は、本を読むことが好きである。	45%
私は、草花や野菜を育てるのが楽しい。	42.7%

保護者

項目	あまり思わない 思わないの合計
子どもは、家庭で自主的に学習をしている。	39.5%
子どもは、本を読むことが好きである。	38.2%
子どもは、学校のルールに従って、タブレットを家庭で使用している。	31.3%

- 本校は、習い事をしている子どもが区内の他小中学校に比べて少なく、通塾率も低い。また、保護者の意見としても、子どもたちが家庭で自主学習をあまりしていないということだった。今回のアンケートでこのことが明らかになったことを受けて、家庭学習の大切さをもう一度児童に伝えていくとともに家庭への協力を呼びかけていく。また、宿題を家庭で行うことのできない子どもに関しては、休み時間や放課後にできる限り担任がフォローアップを行う。さらに、AI教材 Qubena を活用し、「個別最適化された学び」を家庭学習でも推進していく。
- 子どもたちの回答で、「私は、草花や野菜を育てるのが楽しい。」という項目であまり思わない、思わないという合計が昨年度に引き続き高かった。「労作」は本校の特色の一つである。活動内容を見直し、よりよい活動になるように精選していく必要がある。さらに、計画的に労作教育を行い、草花を育てる喜び、収穫する喜びが味わえるようにしていく。
- 「本を読むことが好きである。」という項目では、児童・保護者共に否定的な回答が多かった。タブレット端末などの普及で、本を読むよりも映像を見る機会が増えているという課題もあるが、火曜日の読書タイムや読み聞かせ、授業の中での図書室の使用、連携を通して、子どもたちに本に親しませていきたい。
- 「子どもは、学校のルールに従って、タブレットを家庭で使用している。」という項目で否定的な回答が多かった。タブレットを何のために使うのかということを安全面や健康面など多方面からもう一度、学校で指導していく必要がある。さらに家庭にも学校でのルールを周知していく。新しくスクリーンタイムの設定ができるようになったので、保護者へ周知していく。